

形式指定 (四連)



www.columnland.net



春の風のこと

春の風に背中を押され、タンポポのたねはひとり空を旅していました。ところが途中でびゅーんと強風。小さな綿毛はうさぎさんの鼻にぴたとくつきました。「ハックション！」たねはぽーんと吹き飛ばされて、近くの地面に落ちました。「あーびっくりした。」

たねはしばらく眠ります。せみの声を聞き、月の光を浴び、こがらしを感じ、春の足音を待っています。途中、大きなトラがズシリズシリと上を通っていきました。「痛たたた。」それでもたねはうんしょうしよと耐えました。

そして春。地面からつくしと一緒ににょきにょきにょきと生えてきたのは元気な黄色のお花です。「わぁー！」太陽が見えます。チョウチョもいます。どこからともなくさるの坊やもやってきました。タンポポは坊やといっしょに楽しく踊りました。

「パパーたんぽぽさんおおきくなれてよかったねー！」

「そっだな。お前もタンポポのように強く楽しく成長するんだぞ。」

「ぽく、たんぽぽさんみたいになれるの？」

「ああ、なれるよ。」

「ほんじつ……じゃあぽくたんぽぽさんになるー！たんぽぽさんになつてお空にのびのびに手をのびるのー！ママきつと笑ってくれるよ、ねえパパー！」

颯太くんは今年4才になります。

初めまして 僕はエスパー よろしく
あれ？ 信じてないでしょ
ぶすー

信じてほしいなあ

だってほら こうやって紙面を通して会話してるじゃない
これも僕の能力なんだよ？

もおー まだ信じてないでしょ

あ そうだ

君の未来をこれから僕が占ってあげる

当たりつこないって？

ふふん

当たるとかそういうレベルじゃないんだよ？ 僕のは

だって百発百中ハズレ知らずなんだから

うーんと それじゃ始めるよ

はい終わりー

え？ なんにもしてないじゃないかって？

違うよー 記憶を消しただけなんだからー

だって未来が分かっちゃったらつまらないでしょ？

えー それじゃ占いの意味ないって？

んー

考えてみたらそうだね

って 信じてないなー

……もお どうしたら信じてくれるのさー

……あーダメだー 何も思いつかないー

って あれれー？

どうしたのかなー？

ははーん もしかして寂しかった？

そんなことないって？ もう 照れ屋さんなんだからー

ほらほらあ もう素直になって僕のこと信じてよー

ん？ 話題がすり替わってるって？

残念 もう少しだったのに

……分かった じゃあこうしよう

僕が今からこの紙に付いてた汚れを全部落とす

それができたら信じてくれるよね？

……本当にだよ？ 約束だからね

よし それじゃあいくよー てりやー

僕
を
信

じて！

采配

「ハア、ハア・・・」

ガサツ！つと物音がしてとつさに振り返る。

「なんだネコか・・・」

ネコは自分が歩いている路地の脇の細い裏道に入っていた。そこは暗くて見えづらく、道の存在に今気がついたくらいだ。

「こつちに入ってみるか・・・」

自分の勘を信じ、男はネコが入っていた裏道に入る。

男がこちらに向かって歩いてくる、待ち伏せされているとも知らないで。

拳銃を持ち直し、廃墟の陰に隠れて近づいてくる男をじっと待つ。

あと二十メートル、十五メートル・・・

「痛い」

急に足元に痛みが走る。どうやら隠れている壁に立ってあつた廃材が足の上に倒れたようだ。

ついてない・・・そう思いながら男のほうを向くと、さっきまでこちらに向かって歩いていたはずの男が忽然と姿を消している。

「全くついてない・・・」

「ニヤー」

おなかがすいた。このすたれた町には餌が少ない。もう三日もろくなものを食べていない。久々に見つけた人間の足元に座りこんでみるが、なにかを観察するのに夢中でえさをくれる気配はない。一体何をそんなに見ているのか・・・気になった私は男の視線をたどる。

「！」

するとその男の視線の奥にねずみがいるではないか。わたしは男の足元から勢いよく飛び出した。壁に立ってかけてあつたなにかを蹴っ飛ばしたような気もするけどそんなこと関係ない。三日ぶりのご飯だ！

ねずみはわたしの存在に気付き、細い裏道に逃げ込んだ。逃がすものか。私はねずみの後を追いかけて裏道に入った。

二人は麻薬の取引をしていた。片方はヤクザで、もう片方は若いチャラ男だ。ヤクザがチャラ男に麻薬を渡し、チャラ男がそれを売りさばく、という契約を結んでいた。しかしチャラ男はヤクザに金を渡すことなく逃げたため、ヤクザがチャラ男を追っている、というわけか。どっちもどっちか・・・いや、チャラ男は麻薬を売ることへの良心の葛藤の末麻薬を海に捨てている。まあ、今回限りチャラ男を助けてやるか。そうして？は一匹のねずみを地上に放った。

Fortune of Life

赤ん坊がこの世に生まれおちたとき

彼はとても裕福であつた

赤ん坊はだんだんに歩くことをおぼえ、話すことをおぼえ、知らぬうちに愛されることをおぼえて青年になつた

青年が周囲と衝突を繰り返したとき

彼はその投資の意義を問うた

青年はだんだんに悩むことをおぼえ、変わることをおぼえ、人を愛することをおぼえて父となつた

父親が懸命に社会に交わり働いたとき

彼は自ら子に無償の寄付をした

父親はだんだんに支えることをおぼえ、守ることをおぼえ、人を尊ぶことをおぼえて老年をむかえた

老年、すべての山と谷を振り返るとき

彼の手元にはのこりわずか

しかしその対価は彼自身の記憶のなかに

彼を離れた未来のどこかに

豊かに実っていることが

彼にはわかる

だからこうして穏やかに微笑むのだ

ひるじん

『私、一文字 猛(いちもんじ たけし)と申します。今年で五十三歳になります。妻子はありません。これでも大手企業の部長を務めていました。先月までは。リストラでもされたのかって？いや、そうでは無いのです。実は私、改造人間にされてしまったのです。信じ難いでしょうが、これは紛れもない事実なのです。』

：あれは通勤途中の出来事。いつもの様に人混みの中を歩いていた私は、突然何者かに後頭部を殴られ、気絶してしまいました。そして気が付くと、私は手術台の上に仰向けにされていました。壁には金色の蛇のマーク。私は一目で、子供の頃に見た特撮ヒーローものの、敵のアジトに似ていると思いました。幸い四肢は固定されておらず、周りには誰もいなかったため、私は飛び起きて一目散に逃げました。どうやら地下の様だったので、ひたすら階段を上へ。暫くして、ベレー帽をかぶった戦闘員らしき男が十人ほど追ってきました。その者達を何とか振り切って、アジトから脱出することに成功しました。外に出てみると、驚くべきことにそこは自宅近くの商店街の路地裏でした。：夜になって人通りの無い商店街を駆け抜け、私は自宅へ戻りました。

家に帰り鏡を見て、私は驚愕しました。先程は脱出に夢中で気付かなかったのですが、私の体はまるで巨大な、どす黒いヒルになっていたのです(といっても、太くて短い四肢はありましたが)。改造をされる前に逃げて来たと思ひ込んでいたが、どうやら改造を免れたのは脳だけだった様です。何か喋ってみようと試してみましたが、呻き声と共に唾液が飛び散り、しかもその唾液がかかった家具は溶けてしまいました。これほどでもない怪人に改造されてしまいました。チビツ子の人気を得ることはできなさそうです。

次の日、仕事には行けないとしても食料は必要だということで、私はコートと帽子、マスク、サングラスに身を包み、スーパーへ買い物に出かけました。スーパーに着いたとき、私は息を吞みました。今まさに、昨日追いかけて来た者と同じ格好の男が、スーパーから出て来たおばさんの後頭部を殴ろうとしていたのです。

私は「危ない！」と叫び(正確には叫んだつもりで)、戦闘員に飛びかかりました。唾液が彼にかかって、肩の一部が溶けました。そして次の瞬間、私の意志とは無関係に口が伸び、彼の腹に吸い付きました。はずそうと思ってもはずれず、呼吸をする度に、彼の血を吸い上げてしまいます。そうしているうちに、やがて戦闘員は空気の抜けた紙風船のようになってしまいました。当然、おばさんは叫びました。言い訳をしようとしても呻き声と共に唾液が飛び散るばかり。：とそのとき、何処からともなく男前最近は「イケメン」と呼ぶのだそうです(が現れて、「出たな、怪人！」と定番の一言。そうでした、最近のヒーローは男前なのでした。：しかし、まさか自分が言われる側になるとは思ってもいませんでした。そう思っているうちにその男が変身のポーズを取り始めたので、その隙に私は一目散に家まで逃げ帰りました。卑怯な様ですが、止むを得ませんでした。

こうして私は、謎の組織とヒーローの両方に追われる身となっていました。私は一体、これからどうしたら良いのでしょうか。人目を気にしながら暮らすのにはもう耐えられません。：ご助言をお願い致します。』

：ふむふむ、なんだか深刻なお悩みですねえ。でも、昨日の「レタス怪人」にされてしまった人よりはマシですねえ。彼女は人前で光合成をしなきゃいけませんから。うーん、そうですね、お便りの中にもあった吸血能力を生かして、肩こり治療でも始めたらどうですかあ？アハハハハ！

さて、今日のお便り相談コーナーはここまで！次は明日のお天気です。現場の「温度計怪人」さあん！

ジャーナリストにとって、それは魂の震えだった。

自分の仕事をもはや作業としか感じていなかった多くの記者やカメラマン達が、この事件に使命感を突き動かされ、自らの意志で記事を書き、現地へ赴き、そして激論を交わした。

この世界を揺るがす事件について、早く正確な情報を。そして振り下ろされた暴力に、ペンの力で立ち向かう。そのために俺はここにいる。誰もがそういった意志を共有した。

ジョージ・W・ブッシュにとって、それは怒りであった。

ブッシュは日々己の無能を感じていた。どれほど努力しようとも偉大な父を超える事はできず、周囲の参謀も自分を見下しているのを知っていた。彼が持つ物は父の基盤だけであった。

だがそれでも、彼は第43代アメリカ合衆国大統領であること誇り、誰よりもアメリカを愛していると疑わなかった。そのアメリカを傷つけた相手を、断じて許さぬと彼は誓った。

テロ実行犯にとって、それは聖戦であった。

死に行く事は怖かった。怖くてたまらなかった。背後に転がっている機長の死体を見、そして屍すら残らない己の死に様を想像し、生きたい、死にたくないと叫び出しそうだった。

だが巨悪を討つため、同胞の未来のため、涙を溢れさせながら操縦桿を握り続けた。絶叫を上げ、しかし決して泣き言は言わず、最後の瞬間まで操縦桿を力の限り押し倒した。

アメリカン航空11便の乗客にとって、それは事故であった。

実行犯の手違いによってジャックの事実を知らされなかった彼らは、機内の雰囲気にかたラブルの気配を感じつつも、よもや自爆テロなどとは夢にも思わなかった。形の無い不安は急降下による振動で恐怖へと変わり、直後に襲ってきた衝撃と爆風によって全てが消えた。

そこに想いや大儀などありはしない、突然の理不尽な不幸。ただ、それだけだった。

終わらない夢

僕は朝起きて、学校に行こうとした。

何故かいつの間にか学校にいた。

クラスはいつもと空気が違う。僕は席に着くと机の中から一通の手紙

「放課後、屋上に来い」と書いてあった。

放課後屋上に行くと、クラスみんながいて、僕に「死ね、死ね」と言ってくる。僕は逃げ回ったが、やがて友達に押され、屋上から落とされてしまった…

そこで僕は朝ふと起きた。普段通り学校に行こうとした。何故か体が重い。僕は席に着くと机の中に手紙が一通

「放課後、屋上で待っています」と女の字で書いてあった。

「まさか・・・。」と思い、うきうき気分で階段を上る。

その時、僕は階段を踏み外してしまった・・・。

運悪く頭が階段の角に何回もぶつかり、僕は死んでしまった・・・。

はっと起きた。僕は「目覚めの悪い朝だな」と思い、外を出た。

僕は大陸を繋ぐトンネルを作っている。

毎日スコップで穴を掘るので僕的一天が終わる。

悪い夢とはいえ、僕が学生だった時期が懐かしい。

今日一日夢に浸りながら、いつも通り穴を掘るのでした・・・。

そう、夢は寝るときに見る。たまに現実とはかけ離れた夢を見ることがある。

これは自分の憧れている世界、出来事を夢にしているである。

また自分の忌避しようとしている出来事、いやな世界を夢にすることもある。

もしかしたら、今生きている世界も寝ている自分の「夢」かもしれない。

はたして、その夢が忌避すべき「夢」なのか、憧れている「夢」であるか・・・。

まだそれは決めかねない人はいるかもしれないが

是非とも憧れている「夢」でありますよう、祈っています。

大統領専用機

今、私は大統領の秘書官として専用機に乗っている。しかし、どうして戦闘機（複座に改造）に乗って、しかも、大統領が操縦桿を握っているのか、私にはまったく分からない。

「管制室です。フライトの調子はどうですか。」

「全く問題はない。さて、予定のA…G…スタンまで飛ばそうか。」

いや、問題ありすぎるでしょ。サムネホイホイ（簡易広告イメージで人を寄せること。釣り）ならぬSAM（サム、地对空ミサイル）ホイホイ。何を考えているんだこの人。

「すいません、管制室さん、秘書官です。この状況を説明してください。」

「大統領は元空軍エースですよ。それに、この専用機は大統領が乗ると通常の戦闘機の三倍…もういい、なんでステルス（敵のレーダーに映りにくくする仕組み。特殊塗料や機体の形状の工夫による。）なのに赤く染めたのか、良く分かった。あと、この人達に常識が通用しないのも、良く分かった。あれ、それ以前に、大統領が元軍人…？ 文民統制の法則が乱れる！

（テキ セツキン キケン キケン キケン）

「こちら管制室。大統領、お客さんのようですね。四機です。」

「さあ、パーティーの始まりだ！ レッツ、パアライイイ！」

何ということ。予測済みかい。ま、ステルス弱まってるもんな、この塗装。敵にバレバレだ。「あ、君、この機体はミサイル発射とかは後部座席のみの制御だから、よろしく頼んだ。」

あれ、強制？ 元空軍エースの秘書官とかのピンポイント指名だから嫌な予感してたんだよ。

（セントウシステム キドウ）

…なんぞこれ、ウエポンベイ（兵装格納庫）から、大量に空対空ミサイルがでてきたぞ。この人、治安改善のために行くんじゃないやつ？ 戦争おこす気だろ、絶対。

「正面からいくぞ！」

いきなり無茶な事を言い出してきた。いや、後ろをとるのが定石でしょ。まあ、相手の戦闘機フラフラした機動だから、問題ないか。…ここだ！ 敵機撃墜。敵の脱出も確認。

「イヤッホウウウ！ トウードウアウェイ（木端微塵だぜ）！」

それにしてもこの大統領、ノリノリである。あ、後ろから撃つてき…あれ？ 別の敵機を追いかけて…ええっ？ ミサイルを別の敵機にぶつけたよ！ あ、敵はしっかり脱出したようだ。この人、某超一流スナイパー並の超人である。だから、少しは恐怖というのを感じてくれ…。

「二機撃墜。あ、敵機帰ります。怖気づいたようです。」

「全く、オードブルばかりで、腹の足しにもならなかったな。」

（システム ツウジョウモードニ イコウシマス）

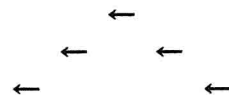
「管制室です。大統領、そろそろ目的地です。基地にあるスーツに着替えることを忘れずに。」

「うむ、武装解除の交渉の場ではしっかり身だしなみを整えねばな。」

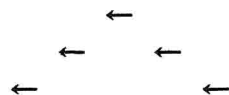
…大統領、この交渉、戦闘機に乗ってきたところからもう間違ってますか。

その白き壁を超えて

木々も凍える夜明け前、もし雲のない星空を見上げる人がいたら、微かなプロペラ音に気付いたかもしれない。小さな飛行機が、監視塔が張り巡らす電波の網から逃れ、《壁》を超えていく。



検閲を潜り抜けてやってきた弟の手紙を、二人で考えた暗号で解いた。指定されたのは今日この場所、この時刻。微かなプロペラ音に空を仰げば、小さな飛行機がやってきた。大きな翼は再び《壁》を超えていく。



「大きくなったな、弟よ」

「兄さんは老けたな。秘密警察かと思った」

「ははっ、あれから何十年経ったと思ってるんだ？」



一九六一年八月一三日 ベルリンの壁 建設開始
一九八九年一月一九日 崩壊

行方

っははは！もうこれは完全犯罪だろう！石坂由美子には、俺が何年もかけて積み立てた九千万の保険金がかかっている。石坂由美子と夫の洋一は仲が悪くて、もう離婚寸前なんだ。だから俺は夫に石坂由美子を殺すことをそのかした。来週の日曜日に石坂由美子と夫には細工してある車でドライブに行ってもらう。ちょうど海岸沿いのカーブで助手席側のタイヤがパンクしてガードレールに激突、死亡って流れさ。問題の保険金の受取人は不倫相手の俺じゃない。俺が受け取ったら簡単に保険金殺人だとばれるしな。そして夫でもねえ。妻の親友とされている桜井香織だよ。なんとか夫とその女にコンタクトを取らせて、保険金殺人の旨を伝えた。女って怖いぜ。親友とかなんとかいって、三千万でこの役を引き受けやがった。

俺は手を汚さずして三千万が得られる。笑いが止まんねえ。

わかつてるのよ。保険金殺人を企んでいることくらい。そもそも離婚寸前に洋一がドライブに行こうと言い出すなんて不自然すぎる。殺人を企てていたことで洋一を逮捕させてあたしは慰謝料をたんまりせしめてやる。ノーリスクで離婚できて、そこそこの金が入るなら十分よ。

さようなら、洋一さん。

僕を見くびるなよ。今まで由美子には虐げられ続けてきて、今度は不倫相手の貝塚辰夫が現れて、俺と一緒に由美子を殺そうだと？よく僕の前に姿を現すことができるな、笑わせるな。いいよ、乗ってやるさ。知っているか？今の日本でも殺し屋はいるんだぜ。生活に困っている外国人は十万ぼつちで人を殺せるんだ。

計画後、貝塚も由美子も死ぬ。三千万の予定が桜井香織と折半で四千五百万いだきだ。

棚からぼた餅ってやつかしら。突然現れた貝塚辰夫という男によると由美子殺害において保険金の受取人になるだけで三千万いただけるらしい。前から嫌いだったのよ、由美子は。自分勝手なあいつに恨みを晴らせる千載一遇のチャンス。九千万を山分けする気なんない。私は保険金を受け取っても不自然じゃないわ。だって親友なんだから。

さあ、今から高飛びの準備をしなくっちゃね。

あいうえおの消失

〔あ、い、え、お〕

朝起きて、何か違和感を感じた。言葉がなかなか出てこないみたいな、おかしい感じ。まあ、だらだらしていても仕方ないので、とりあえず仕事に行かなきゃ。

〔あ、い、お〕

おや？道にあった、あの灰色の柱がない。いや、柱どころか、空は青いばかりで白いのは微塵もない。まさか、今通ったばかりの場所には一枚の板も無かった。一体何が起こったんだ？

〔あ、い〕

あ、痛い。いささか胃あたりがきりきり。しかし、まだ大事な貴方は在り。私達には、ただささやかに愛あらば良い。悲しさは無い。

〔あ〕

がは。鮮やかな赤。あ、身体がガタガタ。中が空か。あはは、構わん。まだまだ。ああ、だんだん、暖か……

コンテスト結果				
コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	春の風にのって	2 pt	7 位	0 sp
		絵本テイストの今週の表紙。 うんしょうんしょ、によきによきによきっ。 擬音がいい効果になって、カラフルで楽しいページになりました。 イチオシフレーズ：「強く楽しく成長」		
02	無題（エスパー）	2 pt	7 位	0 sp
		トークのかわいらしさ全開。 ムリヤリな設定なのに、いつしかエスパー君トークに引き込まれてしまいます。		
03	采配	10 pt	3 位	1 sp
		猫登場。それだけで、うれしくなる読み手さんも多いのでは。 4者4様という発想は今回多かったけれど、これはラストに神を持ってきたところが、すこんと突き抜けたユニークさでした。伏線の張り方もていねいでしたね。おめでとうブロンズ・メダル！ 特別賞：異世界のねずみで賞 from quad Chapter班（空から降ってきたねずみ 今週はラピュタ）		
04	Fortune of Life	5 pt	6 位	0 sp
		だんだんに「何か」を得て成長していくというパターン通りの考え方をひっくり返して、「何か」を支払うことで対価を得つつ人生を歩んでゆくんだ、というコンセプトがとても新鮮でした。ラストもしみじみな逸品です。		
05	ひるじん	7 pt	4 位	1 sp
		シュールな光景の連打と語り口の軽妙さに唖然。 ラジオ相談仕立てにしたアイディアもうまくはまりました。 なるほどここは怪人だらけの世の中なのか、ふうん。 語り口のユニークでイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！ 特別賞：怪人も大変で賞 from Iconoclast班（怪人ワロスww） イチオシフレーズ：「最近『イケメン』と呼ぶのだそうです」「彼女は人前で光合成をしなきゃいけませんから」「現場の温度計怪人さあん！」		
06	9.11	7 pt	4 位	0 sp
		あの大きなできごとを、しっかりスコープの中心にとらえて、すばりすばりと力強い言葉で再構成。シンプルにしてインパクト大。あざやかです。 特にラストの乗客の状況のくだりに、うならされました。寄り添いも突き放しもしない視点のとりかたが、おみごと。		
		0 pt	10 位	1 sp

07	終わらない夢	フォントを変えることで語り口と気分を変化させつつ、夢ワールドへ。4つの味が楽しめる幕の内弁当的工夫でした。 穴掘りさんという光景が、ちょっとおとぎ話っぽくて、やや重めの話に明るさを添えてくれています。 特別賞：私の夢と同じで賞 from 四季映姫ヤマザナDo！班（こういう展開こそ夢の本質の姿だと思う）
08	大統領専用機	1 pt9 位0 sp 楽しそうだなあ大統領、もとい作者さん。 戦闘シーン書くのが大好きという心のはずみが文章にしっかり乗っていて、ユーモアもあるし、何より誰も殺さなかったところがポイント高☆ノリよくイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！ イチオシフレーズ：「レッツ、パアリィィィ！」×2「イヤッホウウウ！トゥードゥアウェイ（木端微塵だぜ）！」
09	その白き壁を超えて	0 pt10 位2 sp 飛行機多いなあ今週、の最後です。 記号で動きをあらわしたところがワザアリな一品。 ←の編隊によって、隔てられている状況を何とか超えようとする気持ちがしっかり伝わってきました。 特別賞：世界まる見えで賞 from (-A-) 班（番組と同じだから） トトロ（班長）がお怒りで賞 from 日本の四季班（一月一九日⇒十一月九日） イチオシフレーズ：「大きな翼は再び《壁》を超えていく。」
10	行方	12 pt2 位1 sp これはこれは。何とかサスペンスみたいな、ドロドロの人間関係ですねー。 セリフだけで、きっちり構成てみせたところ、知能犯でした。 さすが出題者さんの力作。シルバーメダルの貫禄です。おめでとう!! で、けっきょく、さいごに笑うのは誰？ 特別賞：香織はスポーツマンで賞 from G13班（高飛びでたつおを殺すんでしょ!?) イチオシフレーズ：「前から嫌いだったのよ、由美子は。」
11	あいうえおの消失	14 pt1 位4 sp つくってみました。 朝起きて【あいえお】 お空が泣き顔だったなら【あいお】 相合い傘さ【あい】 あたたかだ【あ】 むずかしい。。。 すばらしい発想力！ 啞然とするほかありません。 首位&最多特別賞&じゃがりこサラダ（≠一度は食べていただきたいおいしいサラミ）get、おめでとう!!! 特別賞：選考ミスで賞 from BLANK班（最後の空白は実は五段目!?) とりあえ「ず」賞 from FFX 班（う段つかってますよ）で賞 from 日本沈没班（2段目にえ

			行が入ってしまっている) すばらしすぎるで賞 from ヒル班 (実際すばらしすぎるぜ) イチオシフレーズ: 「ただささやかに愛あらは良い」
--	--	--	--